

D-2 母性意識を形成する要因について

大妻女大家政 ○今井節子 平井信義 千羽喜代子

目的：母性意識として、①子どもが好き、②子どもが欲しい、③子どもと一緒にいると楽しい、という感情面をとりあげ、これらの感情が、どの年齢においていかなる要因によって形成されるか、その心理的機序を明らかにしようとした。

方法：郡内の中学・高校・大学の女子生徒・学生3079名、及びオ1子が1・3・5歳である子どもをもつ母親603名を対象に、17～21項目から成る質問紙法を用いて、昭和49年10～12月に調査を行った。

結果：①子どもが好きと答えた者は、中学生702%、高校生620%、大学生703%、母親783%あったが、子どもが好きではないと答えた者は、それぞれに14.4%、20.8%、18.9%、17.1%あった。これら両者を比較してみると、子どもが好きという肯定的感情をもつ者は、これまでに幼い子どもの世話などを通じて、子どもとの接触を多く経験していた者であり、逆に子どもが好きではないという否定的感情をもっている者は、それが少ないことがわかった。②結婚後に、子どもを欲しいと思っている者は、中学生39.7%、高校生40.1%、大学生48.1%、母親62.2%とその率が増加しており、逆に、子どもを欲していない者は、それぞれに25%、3.6%、3.4%、1.5%認められた。③子どもと一緒にいて楽しいと答えた者は、中学生34.3%、高校生36.7%、大学生42.9%、母親78.5%であり、逆に、楽しくないと答えた者は、それぞれ6.7%、9.3%、6.6%、0.5%（1歳の3人の子の母親のみ）となり、楽しいと答えた者が、中・高・大学生に比較して、母親が高率であったことは、楽しさという感情が、子どもと過ごすなかで形成されると考えられる。